

## 平成21年度愛媛・高知交流会議 議事録

日時：平成21年5月13日(水)13:00～14:00

場所：愚陀佛庵

出席者 愛媛県知事 加戸 守行  
高知県知事 尾崎 正直  
愛媛県企画情報部長 長谷川 寿  
高知県総務部副部長 久保 博孝

○長谷川企画情報部長 それでは、ただ今から平成21年度愛媛・高知交流会議を開催いたします。

本日の会議の進行役を務めさせていただきます企画情報部長の長谷川でございます。よろしく願いいたします。

開会に当たりまして、今年度の開催県であります愛媛県知事がごあいさつ申し上げます。

○加戸愛媛県知事 本日はわざわざおいでいただきまして、誠にありがとうございました。第9回の愛媛・高知交流会議をこの萬翠荘で開催できますことを大変喜んでおります。これは愚陀佛庵という名称ですけれど、夏目漱石が松山中学に赴任された時に借りていた部屋に一高時代、東大予備門時代の同級生であった正岡子規が寄宿した、病氣療養の意味もあったのですが、52日間この建物の中で同居生活をされたということで、場所は市の中心部にあったのですが、昭和57年にこちらへ移築をいたしまして、それ以来、茶会等では使われておりますけれども、このような公式行事に使うのは初めてで恐縮ですが。

○尾崎高知県知事 いいえ、どうも。

○加戸愛媛県知事 こういった会議に利用できたことを喜んでおります。特に今年の秋にはNHKスペシャルドラマの「坂の上の雲」が予定されておりますので、当然こういった場面も含めて放映をされるのだらうと聞いておりましたけれども、そういったことで子規と漱石ではありませんが、高知県知事と愛媛県知事とが議論というほどではありませんけれど、意見交換できれば大変うれしいことだと思いますので、率直な忌憚のない意見の交換をさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○長谷川企画情報部長 それでは、愛媛・高知両県の共通課題、また連携交流などにつきまして、フリートalkingでの意見交換をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○加戸愛媛県知事 事務レベルではたくさんテーマを準備しておりますが、とても1時間で

処理ができませんので、サラッと流すところ、若干掘り下げるところで適宜意見交換をさせていただきたいと思います。

1番目が、今国の最大の問題である経済、雇用関係であって、今回、今までの二次補正、当初予算、それから今回の21年度補正予算という形で続々と経済対策が講じられた中で、実行部隊は、特に雇用関係は都道府県ということになりますので、そんな意味で高知県も様々な取り組みをされていると思いますけれども、これは自慢話をする必要はないので、ただ、今回のケースは私のほうで考えてみると、ある意味では正規雇用にはつながり難い性格のもので、臨時応急的なものでありますけれども、何かこれをきっかけに例えば農業とか林業、あるいはその他の分野への、言うなれば一種の労働シフトの材料になるのかな、そういうところへ最後は結びつけることができればなと願っておりますけれども、高知県のほうでもいろいろおやりになっていると思います。

○尾崎高知県知事 国のインパクトを使って緊急的な雇用対策をしておりますけれども、あわせてできればこの機会に新たな新規の雇用創出するに当たって、産業構造の転換と言いますか、今年も本当に高知県も一次産業の方は、担い手がどんどん減ってきておまして、ピークになりまして高知県なんかは農業の2割ですとかそういう状況になってますので、できればこの機会にそういう所にどんどん就業者が増えていくようなかたちになればいいなと、そういうことを考えて、今仕事をさせていただいているのですが、ところで、今この一次産業の中に人が入ってくるというのが、なかなか産業障壁の高い分野でもあるし、例えば研修をやりますとか、休耕地を紹介するとか、そういうキメの細かい受け入れ策というのが必要になってくるのではないかと思います。雇用対策という観点からいきますと他にも福祉の分野なんかにも円滑に人が入ってくれるようにもなってもらいたいという風に思いますので、国に対していろいろ基金とかそういう事業も非常に重要だと思いますが、合わせて新たな担い手を必要としている分野への参入、これを促していくような政策というものは是非、雇用対策でとれるようになればなと、県単独では行っておりますが、またさらに国の方でも合わせてやれるというかたちになれば非常に良いかなとそういう風に思っています。

○加戸愛媛県知事 おっしゃるとおりで、私なんかは今見ておまして、言うなればどういった形での正規雇用につながるかという、なかなか難しい面がありますし、例えば今回も介護職員の給与の案とか、こういう形で国が取り組んでいただくことによって受け皿づくりに繋がればと考えています。

それでは、次の第2のテーマのほうへ。本四高速を含む高速道路の利用促進策へ移らせていただきたいと思います。

高速道路の料金の問題というのは大変頭の痛いことだったですけど、今回、土曜、日曜、祝日の5割引で、しかも5割引に加えて上限1,000円ということで、おかげで連休は愛媛県では大いに賑わってうれしいことでありましたけれども、四国全体へ、とにかく関西

・中国あたりから、どんどん人が来てもらうということが、四国地域の振興に繋がるという点で大歓迎をしておりますけれども、一面において愛媛県が困っておりますのは、フェリーの方が致命的な打撃を受けて、休便、あるいは場合によっては便の継続が難しいというようなところも出たりする副作用もありますので、悩ましい問題であります。高知県の場合は今の関連、副作用の問題は余りないと思いますけれど、やはり連休での高知への入りは大分増えたでしょうね。

○尾崎高知県知事 そうですね、2割弱ぐらいでしたけれども増えましたので、かなり観光施設によっては、過去最高の入り込みだったようですから、やはり高知県としては手応えを感じておるところでございます。

○加戸愛媛県知事 後ほどのテーマであるテレビドラマの相関関係でリンクしていくと、かなり相乗効果が期待できるように思っておりますけれど。

○尾崎高知県知事 坂の上の雲がもうじき始まるということで、まあ去年もミュージカル龍馬でかなり愛媛と高知で勉強さしていただいてありがたかったわけでございますが、我々もいろいろ坂の上この雲で愛媛へ入っていただいて、その方がついでに高知へも足を伸ばしていただくというような感じになればいいと思います。また、本県の場合は来年大河ドラマが、NHKさんの大河ドラマが龍馬伝ということでありますから、この機会を活かしていきたいと思っております。ぜひ一緒に連携していろいろやっていただければと思っております。

○加戸愛媛県知事 実はこの問題でいずれ頭が痛くなるだろうと思っておりますのは、今から6年前ですかね、この本四の料金設定の問題がありまして、基本料金があって、それを特別料金へ割り引く措置を講じられた時の、大詰めの国と関係自治体との折衝の中で、とりあえず平成24年までは、各県の出資が終わるまではこれでいくけれども、平成25年以降は地元関係自治体の追加出資がなければ基本料金に戻りますという一方的なお話があって、出資をお願いしたいと、関係10府県市が返事をしなかったという状況があって、多分この闘いが平成25年の2年前ぐらいには大きな争点になってくるかなと心配しております。高知県の場合には出資の比率はまだ愛媛、香川、徳島より低いほうですけども、関係10自治体の一応総意をもって国との折衝、取組みというのがシビアになってくるとの心配は正直しているところでもあります。

○尾崎高知県知事 本当に料金を引き下げることでむしろ全体としての高知側としても収入が上がるという姿をつくりだせるかどうか。それがその戦いについてもまず事前に環境整備という点では重要なんだろうと思います。そういう意味においてもこの今1,000円になってこの機会を活かして、できるだけ利用率を上げて行くといえますか、その取り組みを続けていく。それで本四側としても手応えを感じてもらう、国についてもそういう風になっていけばいいかなと思っております。ちなみに観光誘致という点で、かなり今回人が増えたことでもありますので、今私たちが思っておりますのは、観光バスさんの、せめて土日祝日

ぐらいの料金引下げというのをやってくれないかなということを考えていて、私も先日要望もしたところですが、その他のインフラとの兼ね合いもありますけれど、そういう中でも可能などころについてはできる限り引き下げていってもらえればなと思っていますところでございます。できれば、運送事業者さんなんかについても、どう考えていくのかと、そういう観点からは1つの手段であろうかなと思います。

○加戸愛媛県知事 実は今度行われた大幅割引の場合、愛媛県として国にずっと言い続けてきたのは、今言った大型物流の問題で特に愛媛県の場合は西南地域、水産が命ですから、新鮮な魚介類を関西・関東へ運ぶ、スピードが要求される。でも本四架橋を利用すれば極めて九州・中国に比べたら非常にハンディを負ったかたちでの、産地間競争となっているので、大型車の料金を何とかならないのか。これは経済、地域の振興という点もあるし、それから経済競争での格差を是正するというわけをお願いし続けてきたのですが、夜間料金の引きである程度、その点は実現したのですが。これは観光振興の意味での一般車と同じようなウェイトで考える必要があると思います。

○尾崎高知県知事 私は前回の1,000円の時についても4県連携して加戸知事を中心に皆で、申し出に行ったりとか、ということもやって成果も上がったわけですけども、また今度の大型物流の問題なんかのことも4県連携でまた取り組んでいけたらいいなと思います。

○加戸愛媛県知事 それはかなり料金的には4県がもつとしたらこれは大変な負担になるわけですから、国の経済政策として地域間格差の是正という意味での取組みをしていただかないと、ただ国にまる乗りでなくて、場合によっては4県もそれなりに今直轄負担金の問題が戦われていますけれども、ある程度の地元負担を覚悟の上で地域産業の振興という点で取り組む必要があるかなと私は考えております。いずれにしてもこれは四国の4県知事会議、あるいは中四国サミット等々での共通のテーマとして、特に物流の点では四国プロパーの問題かもしれませんが、両県知事がスクラムを組むというかたちで望んでいきたいと思っています。

これに関連しますけれども、3番目に高知・愛媛の観光振興に向けた取組みとして高知県の方からテーマを出していただいておりますが、先ほどの2年間の高速料金の方が続けば絶好のチャンスでもありますけれども、それと同時に観光自体も愛媛県の場合、今年はNHKのスペシャルドラマ「坂の上の雲」がありますし、これが終わったらその後すぐ高知県での「龍馬伝」ですか、大河ドラマが始まるし、また今年の秋には徳島の方で「ウェルカム」という朝の連続ドラマが始まります。ちょうど四国の3県でNHK放映してただけ。そういった点では四国の観光振興にはすごい追い風の年かなと期待をしております。

○尾崎高知県知事 とにかく絶好のチャンスがやってきたという思いでございます、「龍馬伝」にあわせて高知県でも盛り上がっていきなりたいと思いますし、高知の盛り上がりを他の県でも共有していただけたらと思いますし、また愛媛県の「坂の上の雲」それから「ウ

エルカメ」、この盛り上がりというものをいかに四国全土のものとしてつなげていけるかということも我々としても問題にしていきたいと思います。そういう点でいろいろ四国の観光について言えば、4県合同で取組むこと、また高知愛媛で協力してやらせていただくと効果が上がるであろうということ、また各県各県でそれぞれ良い意味での競争をしあっていったらいいのではないかと思われるところ。こういうのが、それぞれのレベルであるのではないかと思っています。1つは、四国観光立県推進協議会を促す。こちらにも新たに事務局体制を強化していくということで活動が大幅に強化されました。この四国は1つということで観光地としてのPRをしていくということについては特に海外でありますとか、四国から遠い遠隔地、東北、北海道、そういうところなんか関東圏もそうかもしれませんが、そういうことになってきますと非常に有効なのではないかなという風に思っております、そういうところとの繋がりを強めていきたいと思っておりますのと、また合わせて特に愛媛県さんと高知県の場合でいきますと、特にうちで言いますと幡多地域と南予地域、ここのある意味一種観光的な一体感というものが従来であって、四国西南地域観光連絡協議会、こちらを活用させていただきまして、いろんな連携事業をやらせていただいていたところですが、実は本県も新たな観光支援及び観光体制の整備ということでかなり力を入れて今やっているのですが、例えば、幡多地域でいきますと、今度、国土交通省の広域観光圏という認定をされて地域で一体となって、いわゆる着地型の観光開発というのを今からやろうとして、且つ観光PRもやろうとしているところでございます。そういう時に、幡多だけではなくて、愛媛とも一体となってPRしていく。さらに、商品として連携していくということになりますと、すごく効果が上がるのかなと、全般的に「龍馬伝」「坂の上の雲」と非常に追い風が吹いているときですから、だからこそ新しいことに取り組んでいこうじゃないかと思う環境が整ってきたのかなと思うわけでありまして。そういう、いわば追い風を十分に生かしていく具体的な仕組みに、こういういろんな連携の場を生かしながら、具体的な仕組み作りというのを続けていければなと思っております。

○加戸愛媛県知事 今のお話の冒頭にありました四国4県観光立県推進協議会の梅原会長の音頭とりで、各県からそれぞれ職員を派遣してというかたちで、かなりパワフルな形で取組みができると非常に喜んでおりますし、ちょうどテレビ放映等の追い風も含めて、いろんな形での案も、アイデアも出てくることを期待したいと思います。

それと幡多地方と愛媛西南地域と、ある意味あの地域が全国的に見ても一番落ち込みが激しい地域だという認識のもとでおりましたし、私はあそこの要は何かといたらどうしても8の字ルートが欠けたミッシングリンクですから、そこでの1日も早いそういう方向に向けての努力が必要なんだろうと思いつつながら正直、今度経済対策で国が、よいことではあるのしょうけれども、暫定2車線を4車線化するというのを全国6つか7つの路線で資金投入して始めましたけれども、私どもの本音から言うと、そこをやっていただくのだったらむしろ1mでも2mでも高速道路が伸びていないところへ伸ばすスピー

ドアップをしてもらいたいなというのが本音のそこではあるんですよ。

○尾崎高知県知事 8の字ルートの関係でいきますと、うちはこないだ3月31日の18路線、一時凍結に2路線含まれていますが、高知南国自動車道というのは、まさに8の字ネットワークの特に高知側からいくと基点に当たるところですから、正直なところ地方における道路の重要性ということについては、いかに正確にとらえられていないか。また、とらえていくための努力が必要なのかということを経験の事例は物語っていると我々は思っています。

○加戸愛媛県知事 国で判断するといろんな意見は出るのしょうから、費用対効果がどうか、でも今回の凍結された路線の中の、愛媛と高知とリンクする地芳道路のところ、トンネルはほとんど完成している。あとは開口部のところがちょっと残っているというところで凍結というようなあんな奇妙奇天烈な案が出てきたことに絶句しましたけれども。

○尾崎高知県知事 本当に単に便利になるというだけじゃなくて、そもそもライフラインとしての道の整備が必要ですし、地芳道路もまさにそうですし、8の字ネットワークも四国ではそういう意味があるわけですよ。より便利にというのではなくライフラインの整備そのものなんだというところをよく認識した対応をやっぱりしていく必要が国の方にあるのだと思っています。ただ、その必要性というのをいかに分かりやすく、場合によっては定量的に示していけるかどうか、道路事業の評価方法なんかにつきましても、我々も道ができることによって通行時間が短くなる原因を取り上げるのであれば、例えば本県なんかでは、年間で1万5千時間も通行止めがおこっているわけでありまして、1日あたり41時間になりますけれど、こういうものを解消することができたという原因が非常に大きいのではないかと。こういうことをしっかりと計算の中におりこんでいくべきではないか。道路事業の評価というもの、そもそも純粋公共材であるところの道路事業の評価というものをB/CでやるならそのBの捉え方をどのようにやるか、これはよく考えないと、たまたま人の多いところでは過剰な設備投資ということになりかねない。そういうことがおこってしまうのではないですかね。この機会に徹底して行ってほしい。是非これは、同じ悩みを持つ愛媛県さんと高知県で手を取り合っていないといけないと思います。

○加戸愛媛県知事 そうですね。私も知事になって以来、今までの道路に関しての悩みというのは、愛媛県と高知県をつなぐあの辺りが大雨になるとすぐ通行止めになる。特に33号線をはじめ四国カルストに来ようとすると、大抵どこかで道が止まってしまって、もしその時に災害が起きた場合の救援とか、物資運搬あるいは様々な応援というのが不可能になるような地域だという感じがしますから、まさに健康で文化的な最低限度の生活が憲法上保障されているわけですから、自主的に担保するのが、あの辺りの道の整備だろうと思いましたが、今回の道路凍結にしても解除に向けて一緒に高知県さんと力を合わせて頑張っていきたいと思っています。そして先ほどの幡多地域、南予地域に関する連携、もうすでにお話がありましたけれども、ここで、やっぱり私どもの感じとしては大きな資源もあ

る。高知の方から言えば四万十川であり足摺岬であり、私どもの方だと、リアス式海岸、それから水産業とか、ああいう自然のグリーンツーリズムの一番向いたところであるし、あまり知られていないということと、プラス交通の面で非常に不便だということがネックになっているわけで、貴重な大きな自然文化資源だと私は思っておりますし、かつて江戸時代からあの辺りは西南文化といって県境を越えて土佐、伊予の別なく文化が栄えていたわけですから、そういう意味での落ちこぼれでなくて、陸の孤島にならないような努力を我々が力を合わせてしていく必要があるだろうと思っております。

○尾崎高知県知事 本当に例えば高知県側でもいいですし、リアス式海岸ですね、共通の魚種が日本一多いところだそうですが、スキューバダイビングの知る人ぞ知るメッカなんだそうでございますけれど、遠いからこそある意味開発されていない自然がそのまま残っている地域がゆえの良さというのはたくさん残っているところですから、そういうものをよく滞在してもらって体験してもらいたいタイプの。こういう意味で連携していくタイプの観光が非常に良いところなんだろうと。それにおいて連携する先が多ければ多いほど魅力度というものは高まるんだらうと思いますから、幡多地域と南予地域の連携をさせていただくということが今、よろしいかと思えます。また、共同でPRもしていければなと思っております。

○加戸愛媛県知事 私も東京で何人かのスキューバダイビングの好きな人がいて、聞くと大体みんな毎年沖縄に行っているのですよね。だから「えっ、愛媛にそんな所があるのですか」なんて言われるのだけど、本当に知名度は全然高くないなという感じがしますから。

○尾崎高知県知事 本当の玄人筋なんだと思います。

○加戸愛媛県知事 沖縄もいいですけど、西南地域もそういうような大きなメッカとして頑張れるかどうかですね。

○尾崎高知県知事 知る人ぞ知るということなので、もっと知ってもらえるといいですね。

○加戸愛媛県知事 それから、四国圏の広域地方計画中間整理の中でプロジェクトの一つとして、「黒潮洗う南海輝きプロジェクト」というのがあります。四国の南東地域から西南地域までの太平洋側を日本一のふれあい体験空間とするため、四国西南地域観光連絡協議会や宇和島圏域活性化協議会等が県境を越えて連携を進めておりますので、これを観光ルートに組み込む、あるいは様々な形でプロモーションしていくということが両県で手を組んでやらなければいけない事柄だろうと思っております。

次の第4のテーマが中国に向けた四国産品の販路開拓拡大等の取組みですが、高知の場合はもうすでに上海事務所を設置されて中国への取り組みを以前からなされている。今年から四国4県で上海、これは大きな中国の中で一番有望な市場としてアンテナショップを4県で設けよう、それから四国4県としての上海プロジェクトが今年度からスタートいたしますので上海の先進県としての高知県のご支援ご協力が何よりも大切でありますけれども、4県が競い合うということも必要でしょうけれども、まず中国に高知のものだ愛媛の

ものだと言っても、およそ小さな島国の中の局部的な話になりますから、四国の物産として一緒に売り込んでいく。四国のものはこういうものがあるな、いいなということをも中国の人に認識してもらおう。それが至上命題ではないか。結果としてはそれぞれの4県の物産の輸出にもつながっていくと思いますので、ぜひ成功させたいと思っております。

○尾崎高知県知事 やっぱり本県なんか非常にもともと輸出の量が少なくて、ただ将来日本の人口減少ということを考えますと、輸出も視野に入れざるおえないということと、上海の急成長ぶりというものこちらを生かしていくということも大切だという観点、両方からしまして、やはり上海向けや中国向けの輸出拡大が大きな課題なんだろうと思います。そのときに、加戸知事さんがおっしゃられた通りだと思いますが、高知県産、愛媛県産ということではなくて、特に相手が遠くなれば遠くなるほど、関係が薄ければ薄いほど四国一体となって売り込んでいくというかたちが必要だと思います。今回のアンテナショップ開設事業もそうですし、それから産品常設売場の開設も今後行っていくわけですが、こういう事業をぜひ一緒に協力して成功させていければなと思っています。1つだけ、これはアンテナショップにしてもそうですし、常設売場もそうですけれども、たぶんそこで、展示してたまたま買ってもらったというだけでは効果が小さいかもしれません。むしろそこで見てもらって興味を持ってもらった人が次のいろんな商談契約、B to Bのようなものでも繋がっていくようなかたちになるのが非常に重要と、そういう意味においてはですね、今後ちょっといろいろな工夫をはかっていながらアンテナショップもしくは常設展示のあとのいろいろなフォローとかをつなげていく必要があると思います。あと、もう1つ、四国観光立県推進協議会の活動とも競合するかたちになるのかもしれませんが、外国人観光客の誘致ということになってきますと、韓国系が特に四国では多いと思いますが、中国という販路開拓という観点からも、上海におけるこの共同の取り組みというのも観光の面でもできれば良いのかなと。外国向けということになると、四国は1つで協力してやっていくべきだと私は思っています。

○加戸愛媛県知事 前段の方の物産販売にとどまらずということについては、まさにその通りなんです。こちら側も相当勉強しなきゃいけないんだと思います。中国では一体物流ルートがどうなっているのか。日本みたいな卸があって、中卸があって、あるいはスーパーのチェーン店みたいなものがあるのかどうかということも、そういった中国での特に上海付近での市場ルートのメカニズムというのはある程度実態をつかんで、どこがキーポイントなのかということで、単に並べているだけだったら、こんなものが日本にあるの、四国にあるのって、一部の人だけが知るだけにとどまりますので、そういった点で大きな販路を開拓する前段階のサーベイ、調査、仕組みというのも相当勉強していかないといけないのかなという感じがいたしております。そんな意味でも高知県の上海事務所が大きな役割を果たしていただけるのではと期待いたしております。

○尾崎高知県知事 ぜひ協力してやらせていただきたいと思っております。



- 加戸愛媛県知事 それから後段のほうでお話のあった中国、韓国からの観光客の受け入れの問題、おっしゃるように愛媛の場合ですとゴルフに来られるというのがだんだん増えてきておりまして、これはいい傾向なのですが、中国の方からのインバウンドというのはほとんどが伸び悩んでいる状況ですね。考えてみるとやっぱりかなり中国は富裕層ができてきているわけですから、そういった方々が日本に来やすくということ考えた場合に難点は、中国から来る場合に富裕層がまず行くのは東京、それから北海道という形で、なかなかメインを回った後の2回目、3回目ぐらいでやっと四国がチョイスに入るかどうかぐらいではないのかなということで、今までいろんなPRをし、宣伝や売込みをしても実効性がほとんど上らなかったというのは正直なところではありますね。
- 尾崎高知県知事 どうしても2回目、3回目、4回目のリピーターの方が今まで行ったことのない四国に行ってみようかということになるのが、今まで多かったのではないのでしょうか。そこからだんだんビザの改正をされた関係で中国からのお客さんも増えてきているという状況の中で例えば5年後には4順目、5順目になる方もそうとうな人数になられるかもしれないから、そういうことをにらんである意味徐々に知名度を上げていく努力をしていく。おそらく、こういう物販なんかと合わせて四国にはこういうものがあるんだということを知ってもらいながら、合わせて観光を売り込むということで、よりリアルなイメージになってくると思います。それまでしつこく続けていくこととございますね。費用対効果も考えながらということかと思いますがね。
- 加戸愛媛県知事 このところは、外国人のインパクトを考えた時には、龍馬だ、子規だと言っても中国人はピンときませんから、やっぱり日本に行って四国に行ってみようかという気持ちを起こさせる動機付けというのは何なのだろうかなと、まだ模索状態かなという感じがいたしますね。
- 尾崎高知県知事 その点、韓国ということになりますと、本県なんかでも最近増えてきていますのはゴルフとかですね。韓国はやっぱり、より近いですからおそらく国によって戦略を変えていきながら、本当にリピーターが多いような所が四国ならいけるかもしれません。リピーターが少ない所は観光商品を売るというそもそもの知名度を上げていくところからまず始めていかなければならないかもかもしれません。国の輸出ザ・ジャパンキャンペーンなんか国別で全部戦略が違っていると思うんですけど、商品を売り込むところと、単に日本という名前を売り込もうとするところと、いろんな戦略をとっていると思うんですけど。四国についても国別にいろいろと戦略をとっていくということかもしれないなとそういう風に思います。
- 加戸愛媛県知事 意外だったのでですけど、韓国というのはゴルフファンが多いのだけれど、冬のクローズが非常に多いという、そういった点ではある意味での冬場での誘致というのはかなり有効かなと見えています。高知はクローズされることはないでしょう。
- 尾崎高知県知事 ええ、大丈夫です。

- 加戸愛媛県知事 それでは次に、産学官連携拠点の形成というテーマでやらせていただきたいと思いますが、今、産学官連携拠点事業を今年3月末に四国の国立大学と4県とでの共同で国に申請しております、四国での産学官連携拠点の形成についてお話ができればと思っております。大きな話で、これは結果的に国が採択するかどうかですけれども、多分これは国が認めていただけると4県の5大学と4県とが共同で、しかもこんな形で取り組むというのは多分全国的にもかなり強力なウエイトの高い意味で評価してもらえると私は確信しております。
- 尾崎高知県知事 産学官連携拠点の申し込み、今申請中ですね。確か、6月中旬ぐらいでしたかね。
- 加戸愛媛県知事 ええ、いろいろと審査があると思えますけれども。
- 尾崎高知県知事 産学官連携と言いました時に、本当に基礎的な部分から応用部分まで、いろんな研究をとということになろうと思いますが、研究開発をこの事業間で連ねていこうとするときに、対象となりうる課題というのが大きいだけにやっぱり1県だけというよりも、できるだけ連携して行ってそれぞれの役割分担して行ってやるということ。且つその成果を共有できるようにすることができれば、それが大きいことだと思います。四国での産学官連携拠点の形成、こちらについては、本県としても本当に全面的に一緒にやらせていただきたいとそういう思いでございます。
- 加戸愛媛県知事 私なんか文部省にいたからでもあります、今、どの大学も経常費1%マイナスという中で、どんな形で生き残るのかという、やっぱり原資となる産業界からの資金が入らないと経費がどんどん削られていく中で生き残れない。そうすると結果として好むと好まざるとにかかわらず産業界と連携をやっていくのが大学としての生き残りでもあるという背景、バックグラウンドをベースとして現実に社会で何が求められているのかと言うと、大学の知恵と行政側のバックアップ、そして民間活力とこれこそ真の意味での、三位一体によって地域振興を成し遂げる、これが今社会的な要請だろうと思っておりますので、これこそ本当に4県がスクラムを強力に組むべきことだと認識をいたしております。
- 尾崎高知県知事 本当に四国を見た時に、そもそも全国的に見ても経済規模が大きい。いわば、産業集積があまり進んでいないところというのは残念ながらこういう時代ですから、どんどん新たな商品開発、技術開発をしていかないと、なかなか生き残っていけないということ、行政なんかもそうなんだろうと思うのですが。なので、もともと規模があまり大きくないというかたちで、すぐキャッシュを生み出さない、こういう研究開発とか、なかなかお金と時間をさくことができない、人もさくことができないという場合が多いんじゃないかと思うんですけれどね。しかし、それをやらないとなかなか生き残っていけない。まあ、その部分を補うということからいえば、ぜひとも学の知恵を借りていくということが産業界にとっても必要だろうと。ただそれが1県だけでは本当に範囲が狭くなりかねま

せんから、4県で連携してその成果を共有し合うというかたちで大きく対応することが出来れば、本当に意味深いものだという風に思いますが、このへんなんとか連携を受けて前へ進めるようになればいいなと思います。

○加戸愛媛県知事 古い話ですけど、私は東京時代に感心したのは、普通の産業といたら四国が一番弱点であって、大きな工場が持てるわけでもなし、どうやったら四国が生きていけるかなというのを東京で眺めている時に、香川県のセシール、通信販売がぐーんと伸びて行って、なるほど拠点が香川県であっても全国のお客さんをあれだけ引きつけられる。つまり、メーカーも製品を納めるのも全国各地に散らばっていて、それからユーザーも全国各地に散らばっている。それをつなぐ接点が香川県にあるだけであれだけの一大産業になった。目の付け所だなと思った記憶がありますから。これは一つの例かもしれませんが、いふなれば四国の地の利はない。だけど四国において何で頑張っていけるのかと言うと、やっぱりアイデア、着想、それが今の時代にフィットしているかどうかということではないかなというふうに感じました。当時を振り返ってみて、今も似たようなそういうことで活路を開くものがきっとあるだろうと思っているのですけれどもね。

○尾崎高知県知事 そういう点は、本当に目の付け所ってことにこれが貢献してくれればいいですね。とにかく今緊急的な雇用対策とかの求められる状況になっていますが、特に高知県なんかにおきましては、そもそも好景気だった時も景気が良くならなかった、ということがございまして、抜本的に今もう経済の体制を強化することが必要であるということで本当に一生懸命県と市町村、一体となって取り組みを進めています。産業振興計画というのを作りまして、経済体質の強化をはかるんだと、高知のものをどんどん県外に売っていくようにしよう。でもそのためには売れるだけの付加価値のあるものにしなければならない。すると、いろいろ産業間の連携が是非必要だと、一時製品の素材というだけではなくて、それを加工して付加価値をつけていかなければならないでありますとか、観光にしましても、先ほど申し上げましたような、こういう風に連携していくような取り組みの中で全体としての魅力を高めていくことが必要であるとか、そのような取り組みを進めているところですが、やはり1番スタート地点で大切だと思いますのは、どんな販路開拓をやるうとしても、やっぺいこうとしたとしても、やっぱり物が良くないとダメだと。その良い物にしていくためにも最初の段階での技術開発、またその技術に関連した人材育成とかを強化していく必要があると。今本県も工業技術センターとかそういうところがいろいろと産業技術についてバックアップとか、民間競争をバックアップとかさしていただいております。私はいふなですが、私はそういう考えで従来より大幅に予算もいっきに10倍ぐらいにしてですね、そちらの取り組みを強化しようとしているところなんですけれども、合わせて課題とすれば、県内の、本県で言えば高知工科大学でありますとか、高知女子大学、まあ、こういったところなんかと連携がぜひとも必要になってくるのではないかと。高知大学さんについては、この四国の産学官連携拠点の中でやっていただくことになっています。

合わせて他の大学、高知工科大学、女子大学、その他の大学の力も得てとにかくアイデアを商品に、アイデアを所得に、そのルートをしっかり作っていく努力をしていかなければいけないなと思っています。

○加戸愛媛県知事 今から8～9年前ですかね、TLOとって大学がそれぞれの特許その他を機構へ持ち込んで、そこでベンチャー的にやって利益を上げようということがあった。構想はすばらしかったのですが、現実としてはあまり機能しなかった。

つまりそれはよい発想なのでしょうが、それは商品化されてそれで成功するかどうかというと、別の要素があるのかなという感じが正直しますね。だからやっぱりこれからの世界はユーザーが何を求めているのか、これならいけるというそういう分野での商業の智恵というものが一番キーポイントになるのかなと。

○尾崎高知県知事 プロダクトアウトやマーケットインとかいう言い方しますけど、やはり地方ですから持っているもので勝負せざるを得ないですけど、しかし、その持っているものをどう磨き上げるかと言ったとき、市場と対応すると言いますね。市場からみてどうだったかとか、販売とか繰り返していく中でどうすれば市場にうけるものになるか、そういうような商品に磨き上げることができるか、それがあってさらに商品の磨き上げをして販路開拓ということにつながっていくのではないかと。今、とにかく本県は県外とのやり取りなんかでも地域収支が大幅な赤字になっているので、こういう状況を打開するために本当に経済体質を強化しないとイケない。全県あげて、さきほど申し上げた最初の物作り、市場と対話する部分ですね。マーケットリサーチさらには、テストマーケットインそれから、最終的に販路開拓を支援、こういうものを生産、流通、販売すべての段階においてこういう民間の取り組みをバックアップしていくということで、全力でとりくんでいるところです。これから経済状況が全体として向かい風になってきているときではありますけど、逆に言いましたら、この向かい風のときでも通用するような物を作りだすことができれば、本当にある意味筋肉質で強いものができるんじゃないでしょうか、追い風になってきたときには、より大きく飛躍することができるということではないのかなと思っています。これからいろいろと連動して連携できる部分も多いと思いますから、いろいろよろしくお願い致します。

○加戸愛媛県知事 今の国の産学官連携拠点の指定が得られることを期待して、頑張りたいと思います。

次に過疎地域の振興に関する新たな立法ということで、過疎法の期限切れを迎えますので、今四国のエリアは過疎地域に対する国の政策としての格別な配慮がなければ成り立たない部分でもありますので、特にこの問題は4県で連携して頑張っても政治力が決めるという問題ですから、4県選出の国会議員それこそ馬車馬のようになって走ってもらわないといけないという気持ちもありますので、政治家の尻をたたき役割をどうぞ連携して馬に拍車をかけるようにやっていかなければいけないと思っています。

○尾崎高知県知事 先日は総決起大会をやられたというお話ですが、本県にとってもこの過疎法の制定、来年22年3月で現行法は失効するわけですけど、これを新たに制定すること、中身をですね、こちらをしっかりとしたものにしてもらうということがぜひとも必要だと思いますので、ぜひ連携してやらしていただきたいと思います。特に2点、1つは地域指定の問題ですが、現行のみなし過疎とか一部過疎の地域っていうのが、まったく対象に入らなくなると大ごとになる。もう1つは今後の過疎対策と言った時にはハード対策だけなのかと、いろいろな特に過疎地域というのは高齢者の方で独り暮らしの方で加齢に伴う障害を持っておられる方とかたくさんいらっしゃいます。こういう方を社会として支えあうようなしくみ作りというのが、ぜひとも必要になってくる、そのようなしくみ作りをしていくことを支援をすることかということできないと、なかなか現状に合った対策というのができない。そういう意味では、ただハード対策というだけではなくて、ソフト対策とかそういうことも視野に入れたような活動にしていく必要があるのではないかと。それと、対象地域の問題と中身の問題と両方について大いに注文したいと思います。おそらく力が非常に大切ですね。

○加戸愛媛県知事 私は過疎問題で思うのは、要するに今までの過疎対策というのがいかなれば補助率の嵩上げとか、若干他の地域より過疎地域は面倒をみてあげますよという精神でできているのだらうと思っております。それを考えてみますと全国的に見てなぜこの地域だけ面倒みるのだというのが都市エリアからすると反発が出るのでしょけれども、ただ大切なことはその過疎地域を応援することによって地域が盛り上がっていくことが必要だという前提に立てば、これは今回の新過疎法の中身ではないかもしれませんが、例えば8の字ネットワークで愛媛西南地域あるいは高知幡多地域、あのエリアを新直轄でやることへの直轄負担金だって、言うなれば今は負担金の見直しがされると思いますが、そんなに大幅に下がるとちょっと期待できませんが、その場合でも過疎エリアでの直轄工事だったらこれは一般の直轄負担金よりも負担率を下げるということはあってしかるべきではないのかなと。例えば極端なことを言うと、東京の外環をやる、東京都の負担金と、あの地域の愛媛県の工事の負担金率が同じというのはやっぱり社会的な公正を欠くと私は思います。そういう意味で新過疎法の制定の運動と同時並行して、あるいはその方針の中に書けるかどうかとも難しいと思いますけれども、今の直轄負担金の見直しに際しても過疎エリアでの直轄工事に関する負担率の軽減ということについて声を出すべきではないかなと思っております。

○尾崎高知県知事 もう一つ国の直轄負担金の問題について言えば、これはやはり、国と地方でしっかり負担金を出す側の意見をしっかりと聴取するという場と、その意見を反映する場というのをしっかりと仕組みづけていくというのがないと、なかなか負担する側の地方としても納得感が得られないというところがあるのではないかと思います。実際、インフラのいろんな法規なんかみても、港湾法とかいうものは地方との協議を義務付けられてい

るわけです。そういうかたちで、例えば道路はなぜそれが必要なのかと。ただ、より長期的に言えば本当に国の行くべきインフラ整備と、その地方の行くべきインフラ整備と、今国が行うべきのインフラ整備といっても、事実上かなり地方に偏ったかたちの事業もあれば、完全に国の幹線道路みたいなものもあろうかと思imasので、そこあたりの切り分けをしっかりとしていく中で直轄負担金問題をどうするかだと思います。情報開示をしっかりとやるということは、当然のことだと思うのですが、その次の段階に、今申し上げた2つの課題は残っているのかなと思います。単に安直に廃止すればいいというものではないと私は思います。維持管理は、すぐさま廃止すべきではあると思いますが、建設なんかについて言えば、2つ、協議の場をもつということがまず大事ということと、もう1つは本当に国の直轄事業としてやるべきものはどういうもので、地方が担うもの、分担するのはどういうもので、という議論をしっかりと、それに応じてその直轄負担金を一部、本当に国が純粋にやるべきものは廃止するべきですし、国と地方が分担していくものはより気持ちよく分担するようになるべきだと思います。果たして、今回どこまで議論が進みますか。だいふ知事会では盛り上がっていますね。

○加戸愛媛県知事 そうですね。これは中身の開示ということ、これは当然必要なことだから、それは国がどちらかと言えば親しむという感じできたところがもうちょっと合理化され、近代化されることが必要であると思います。私は基本的には負担金の一挙の廃止というのは不可能だろうとっております。維持管理は別としてですね。そういった点でのある程度の方向性が議論の中で出てくれば良いなとっております。

○尾崎高知県知事 過疎法の関係ですと、ちょっと政治状況が今後どうなるか分かりませんが、前回のペースでは夏ぐらいまでには大体、新法の方針が、大まかな方向性が決まってくる可能性があると思います。たぶん、最終でより詰まった部分というのは年末から年初のところに前回そうだったのですが、それを睨むと、とにかく大きな方向感なりとも方向性をつけていかないと、その点では夏ぐらいまでにはということになればかなりスピード感を持って対応しないといけないのかなと思います。中四国での知事会議でも、できるだけ早めに強いメッセージを各県連携して出していければいいと思っています。

○加戸愛媛県知事 特に四国の市町村は多分過疎率が全国有数ではないかと思imasから。だいふ時間も迫ってまいりましたから、野生鳥獣被害防止対策・連携、これはもういろいろ調査をし、4県連携で順調に進んでいるかと思imas。ちょっと飛ばささせていただきます。

○尾崎高知県知事 また県境域で一斉捕獲とかそういうものを、また引き続きぜひお願いしたいです。

○加戸愛媛県知事 はい、事務レベルとやっているとと思imas。

次に四万十川の清流保全で、これは昨年も尾崎知事のほうからご提言があった広見川の汚泥と言いますか流水の問題、今愛媛大学のほうでいろいろ実験研究していただきまして、

いろいろ工夫をしてもらったのですけれども、代掻きから田植えまでの間は少なくとも4日間あれば今の問題は相当程度解決できるのではないかというような研究結果が出ておりますので、一応はその大学の研究をベースとして、行政ベース、地元関係者の間で取り組みを行っておりますので、そんなにこの問題は毎年毎年ご不快感をかけなくても解決の道へ向かうかなと思っております、愛媛県側としては最大限の努力をしたいと思っております。良い結果が出てくるものと思っておりますので。

○尾崎高知県知事 はい。四万十川は今年、国の重要文化的景観という指定をされまして、非常にますます四万十川を大切にしていこうという気運が盛り上がっているところですが、残念ながら、まだ下流域の住民のみなさんからは、四万十川問題、四万十川の濁水という話になりますと、広見川の対策をよろしくお願ひしたいという声が強くなってきているのは事実です。ただ、本年より対策事業も組んでいただいたということで、しかも学会の力もいただいて、本格的な研究もしていただけるということで、我々もありがたく思っているところでございます。是非とも、事業の成果については、情報を共有させていただきたいと思ひます。

○加戸愛媛県知事 これは、地域的な問題ということで愛媛県では南予地方局が独自の予算要求を行ったもので、それも併用して、地域一体となって高知県には迷惑をかけないように、四万十川の清流を汚さない方向で頑張りますので、また来年の成果をお示しできるのか、また頭をかいて、あと1年待ってくださいと言うのか、結果は定かではありませんけれど、努力していることをご理解いただければと思ひます。

○尾崎高知県知事 どうもありがとうございます。

○加戸愛媛県知事 ちょうど終わりの時間になりましたが、せっかくの機会でありますので、それぞれの県のPRということで、愛媛県の場合はしまなみ海道開通10周年ということで、花とアートでつなぐ人・島・未来ということで、秋の10月までキャンペーンをやって交流人口の増加を図っておりますので、高知県の方々にもしまなみ街道を訪問していただくチャンスが増えればなと願っております。あと、今度11月に中国四国ブロック民族芸能大会というのを開催する予定でありますので、8県から各1団体をお招きしてそれぞれの地域に伝わる踊り、神楽、獅子舞などの民族芸能を披露していただくことになっておりますので、高知県のご協力も賜ればと思っております。それと坊っちゃん劇場で龍馬の後の第4弾として今、鶴姫伝説を1年間上演しておりますので、しまなみ海道との関連におきまして瀬戸内のジャンヌダルクと言っているのですが、高知県の方にもご認識いただいております。以上でございます。高知県の方から、どうぞ。

○尾崎高知県知事 高知県は今、来年のNHKの大河ドラマ「龍馬伝」に向けての工夫と三位一体となって大いに盛り上がりを作っているところですが、来年の「龍馬伝」の放映にあたって高知県も土佐龍馬出会い博というものを開催します。約1年にかけて来年

1月から1年間かけて開催する予定となっております。土佐龍馬出会い博ですが、高知駅の前にドラマ館、大河ドラマのドラマ館、さらには各地域地域のいろんな情報を発信する情報発信館、そういうパピリオンも設けますし、地域地域の龍馬さんゆかりのいろんな偉人たちがいます。岩崎弥太郎、中岡新太郎、ジョン万次郎もそうですけれど、そういう人々に因んだサテライト会場を設けてこちらでもそれぞれのイベントを実施する。地域のことを味わっていただく始点であり終点にしていただくことにしようとしているところです。その中で一つ梶原町を通ります脱藩の道、龍馬さん達は、土佐から伊予に向けてその脱藩の道を通って行ったわけですが、そういう意味でも高知と愛媛は縁が深いわけですが、この梶原にもサテライト会場を設けて龍馬の意志をぜひ多くの人に知っていただくようにしているところです。ここ何年かで高知県と愛媛県両方で盛り上げていけたらなと思いますので、またぜひよろしくお願いします。今年秋にエンジン01、オープンカレッジ・エンジン01文化戦略会議ということでございまして、これはいろいろ各界の有識者の皆様方、タレントの皆さん、作家の皆さん、音楽家の皆さん、芸術家の皆さん、そういう多くの方々が参加されている文化戦略会議。この方々が高知県にこの秋においでいただきまして、みなさんにいわゆる公開講座をやっていただきます。さらにその夜には夜学、それぞれの方々がボランティアで日本を代表する作家、芸術家の皆さんたちが街に出ていただいて、市民のみなさんとお酒を飲みながら交流していただく、そういう場を設けることになっています。こちらを開催いたしますので、ぜひ愛媛の皆さん方にもお出でいただければと思います。今年の11月27日から11月29日まで、オープンカレッジIN高知ということで、エンジン01文化戦略会議実施をいたします。林真理子さん、和田秀樹さん、秋元康さんとか、三枝成彰さんとか、眞木準さん、山本寛齋さんとか多くの方がもっともって出ていただくので、この機会にぜひ愛媛の皆様方にぜひ高知においでいただきたいと思っております。

○長谷川企画情報部長　そろそろ終了予定の時間がまいりました。どうもありがとうございました。本日意見交換いただきました事項のうち、対応が必要な案件につきましては両県で事務協議を進めて積極的に取り組んでまいりたいと考えております。それでは、閉会にあたりまして高知県知事からご挨拶をいただきたいと存じます。よろしく願いいたします。

○尾崎高知県知事　どうも、それでは本日の愛媛・高知交流会議のほう、このような文化の香り漂うすばらしい場所で開催させていただきました、ありがとうございました。

今、四国地域というのは本当にピンチとチャンスが両方相まっておるという状況にあるのだらうというふうに思います。ピンチという点で言わさせていただきますと、例えば、経済状況の厳しさ、これも本当の意味で晒されているということもあります。先ほど過疎法の話もありましたけれども、その新たな過疎対策、より一層のものを講じていかなければなかなか対応できない。鳥獣被害なんかも、深刻さを増しております。そういう状況がきているんだらうというふうに思います。県として頑張っていくということも必要ですが、



またその窮状というものをよくよく例えば国の政府においても認識してもらおうという必要があると、そういうことにおいて、声を大にしてこういうことについては訴えていく必要があるだろうと思います。本当に今こそ四国4県、愛媛県・高知県の連携が求められているのではないかと思います。

他方、非常に大きなチャンスもきておるわけでごさいます、NHKのドラマのお陰で本当に皆が盛り上がっております。さらには今後いろんな意味で販路開拓でありますとか、観光振興を図っていく上において4県連携でこそ道が開けるといふ点多々あるみたいで、本県のおきまして観光振興、販路開拓という点において他県さんと共同してやっこそうまくいくということがたくさんあるように考えておる次第です。本日交流会議ということでこのピンチとチャンスという両方の面について今後の連携のあり方について1時間でごさいましたけれども話させていただくことができました。本日は話をさせていただいたことを契機にまた今後事務方で、早急に対応していきながら、具体的な話にできればなと思っております。本日は本当にいろいろとアレンジいただきましてありがとうございました。

○長谷川企画情報部長 それではこれを持ちまして愛媛・高知交流会議を終了いたします。